

令和5年度天皇杯受賞者受賞理由概要  
畜産部門

地域粗飼料資源フル活用による強靱な肉用牛繁殖・肥育一貫経営

○氏名又は名称 株式会社 有田牧場（代表 有田 耕一）

○所在地 熊本県球磨郡錦町

○出品財 経営（肉用牛一貫・酪農）

○受賞理由

・地域の概要

錦町は、熊本県南部に位置し、北部は人吉盆地の一部に含まれる平坦な地形で、南部は九州山地の一角を成す山がちな地形である。錦町の農業産出額は、令和2年度で61億2千万円であり、うち畜産は65.4%の40億円であり、肉用牛が21.6億円、飼養戸数101戸、飼養頭数6,278頭となっており、町内の家畜市場や食肉処理施設関連産業と併せて中核的な産業となっている。

・受賞者の取組の経過と経営の現況

（株）有田牧場の有田耕一氏は、平成20年に先代から引き継いだ畜産経営（黒毛和種繁殖牛8頭、ホルスタイン種経産牛50頭）を、肉用牛部門を中心に規模拡大（黒毛和種繁殖牛461頭、黒毛和種肥育牛178頭、ホルスタイン種経産牛114頭）するとともに、耕畜連携を中心に自給飼料面積を拡大し、地域粗飼料資源をフル活用している。その結果、肉用牛部門の飼料TDN自給率も44.3%と極めて高くなっている。

・受賞者の特色

（1）地域粗飼料資源のフル活用による経営の強靱化

所有地、借地および河川敷に加え、耕種農家69戸と連携し稲WCS・稲わら・麦わらを収集するなど作付け延べ面積は396ha（1,200筆以上、生産量4,523t）に及び、輸入飼料依存度を低減し国内飼料自給率を高めた強靱な経営を達成している。

（2）ICT機器の活用と周到的飼養管理による省力化と子牛・育成牛損耗防止の両立

子牛や肥育牛の健康管理、繁殖牛の発情分娩監視などに最適なICT機器を活用するとともに、低温殺菌ホルスタイン種初乳給与、超音波式加湿器の利用、寒冷期の温水給与、子牛用授乳マシン活用などで省力化と損耗防止を両立している。

（3）女性の活躍

従業員8名のうち4名が女性で、哺乳部門のリーダー等の役割を担い、子牛等の的確な飼養管理による事故率の低減化を通じて経営に大きく貢献している。

・普及性と今後の発展方向

有田氏は農協等の役員や指導農業士として実習生や研修生の受入等を積極的に行うリーダーであり、地域内連携による飼料生産拡大やICT機器の有効活用は普及が期待される。地域の高齢化が進む中、今後ともほ場管理の担い手として地域粗飼料資源のフル活用に挑み、肉用牛部門の経営強靱化を図ることは全国の模範となる。